

秋から冬に行うキタムラサキウニの養殖技術開発

背景

- ・身入りの悪い天然ウニを養殖して、市場価値が高まる秋から冬に出荷するための技術開発が求められている。



養殖籠（左）と収穫された養殖ウニ（右）

成果

1 新たな人工餌料の開発

特許化！

既存餌料

開発餌料

水中で溶けて崩壊

水中で溶けない！

開発餌料は既存餌料に比べて水中で崩れにくく、籠からの流失を50%以上低減

2 養殖に適した環境の解明

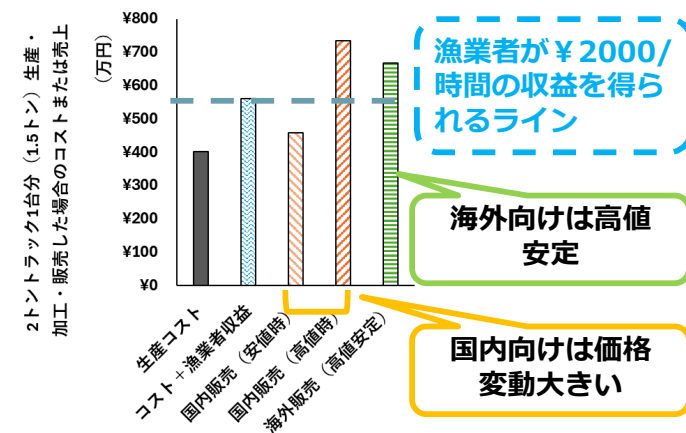
餌を食べられる

餌を食べられない

水温：9-22℃
揺れ：0.2m/s²以下

籠の中でウニが人工餌料を食べることができる条件を解明
※揺れの基準値は加速度の標準偏差

3 収益性の検討



高値安定な海外向け販売を生産量の半量程見込むことで、国内販売が安値でも収益確保が可能

期待される効果

餌の海藻が少ない海域におけるキタムラサキウニの新たな養殖モデルを確立し地域振興に貢献する。

分担試験場：中央水産試験場、工業試験場

共同研究機関（協力機関）：北海道大学、北海道立工業技術センター、(株)北三陸ファクトリー（ひやま漁協大成支所、檜山地区水産技術普及指導所せたな支所、せたな町、(株)愛南リベラシオ）